



路政春秋

道路の近代化を速進せよ

「都市の發展には精神的と物的要件とを兼備することが必要であると思はる、物的要件の第一に算へらるるものは道路である。

都市の名稱をもつても道路か荷車時代の姿のままであつては其の都市の發展、工業の振興は期することが出来ぬ。近代文化、經濟或は觀光の發展を期せんとするならば近代交通機關の尖端を行く自動車の交通を自由ならしむる程度の道路を普く築造することが第一要件である」と寺田電話局長は述べられた。空中交通の職に在る寺田局長をして斯く談らしむるは道路の近代化速進の

急務たることが論議時代や研究時代や考慮時代ではなく實行時代となつたことを證して餘りある處である、中央及地方の當局に緊禪一番を望まざるを得ない。

正しく強く

我國三千年の歴史を回顧するときに感懐措く能はざるものは霸道を歩まず、奇謀によらず、權道を踏まず、仁徳を以て今日の繁榮を基礎づけられたことである。強いことと正しきことを混同してはならないことが國史に依つて教へられて來た、正を履み中を探つて進むときに專斷もなく、横暴もなく、獨善もないのである。強い政治許りが眞個の政治でない。正しいことの看板を以

注 意
本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に渡らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

て強いことので政治するのでは眞の政治とならない。弱體政治が國民から歡迎せられないと同じく強權政治も國民から迷惑がられる、強い計りが能でない。正しく強く行くのが國民に信頼と安定を與ふる政治である、之れは獨り滿洲國に限らない内外に施して戻ることなき主張である。

奇習も改むべきものは改めよ

道路の手入れするにも地方に依つて習慣がなる。骨折る程の好果は收められないのに矢張其の習慣が用ゐらるることが少なくない、改めた方がよい。此は道路に關係はないが驚くべき奇習である。所は大和の三

輪の里である、素戔神社の纏懸祭と餅食ひ行事がある。舊正月十七日祭典執行の後で頭屋の家に戻つて「餅食ひ行事」がある、夫は數個の大鉢に山と盛りられた餠餅を五郎八茶碗に入れて食ひ較べをなしその間少しでも傍見をすれば隣にゐる者が傍見した者の茶碗に餅を十、二十と投げ入れ全部平げるまで歸宅を許さず満腹の際傍見した罰で餅を投げ込まれ涙を流しウーン／＼唸つて食べて居るものや餅のために氣絶したものも相當あり、笑へぬ喜劇を演ずるとの奇習である。改めなければならぬ習慣である。

肅軍工作の前進、在郷軍人の箝口？

陸軍では二・二六事件以來熱心に眞摯の態度を以て肅軍の工作に努むる所があつたが更らに百尺竿頭一步を進めて陸軍々人軍屬著作規則が改正せられ去四月一日から施行せらるることとなつた、夫れに依ると軍人軍屬の意義を明らかにすると共に規則の

適用範圍を在郷軍人會等にまで擴大し、軍人軍屬が公文書に非ざる文書、圖畫、新聞、雜誌、會報、檄文、標語等を著述、編纂せんとする時は所管長官又は監督官廳長官の認可を必要とする旨を規定、更に座談會の筆記、ラヂオ放送、映畫、レコード吹込等にも及ぼす旨を規定、第二條では講演は所屬隊長の認可を要する旨を規定する等全七條から成り、長官又は隊長の認可に當つても修正削除から禁止までの各種の制限を加へ得る事となつてゐる。即ち

一、第一條に於て軍人軍屬の意義を明かにし軍隊、官衙、學校將校團條例より「團體現役軍人（應召中の者及び生徒を含む）軍屬又は陸軍大臣の監督に屬する法人又は團體」と規則の適用を受ける範圍を明示した。

第二、講演以外の公文書に非ざる文書、圖書、新聞雜誌、標語などの著述及び投稿、口述、座談會出席又はレコード吹込み、映畫製作などは今まで所屬部隊長の

認可のみでこと足りたものを今回の改正は直屬長官即ち兵團長師團長級以上の認可を要することに改め講演は所屬隊長の認可を受けることに改められた。

第三、上官、長官、所屬隊長の監督權を擴大し認可をなすに當つては申請事項を檢閲、制限を修正するの權を與へた。

第四、右兩者の檢閲權施行は憲兵隊司令官又は憲兵隊長に委託しその意見を徵することを得ることに改めた。

一、著作完成物の一部は必ず陸軍大臣に提出することになつた。

事茲に至つて陸軍の威信が保たれ軍民會通の途が整つたのである。責任の職に在らざる軍人達の私見が社會から消滅し世の疑惑が一掃せらるることとなつた。陸軍當局の苦心に同情し其の果斷を禮讚せざるを得ないものである。

普く皇國の同胞に待望するもの

若松高等女學校長は日本女性に待望する

とて一、信仰心、二自尊心、三研究心、四批判心、五勤勞心、六共働心を掲げられて居るが至極尤もなる注文であるぞよ、此等の事項は獨り女性に限らず普く男性にも待望せざるを得ない。如何なる場合にも凛として他より犯されざる男性幾人あるか、皇國民たるの天職を達成する原動力は日本人として生活すると云ふ事實に對しての自覺と榮光の感より生ずる自尊心をば全國男性は保有して居るか合理的生活を営むのが文人である。生活の合理化は研究心から出發する、此研究心の乏しきは吾々男性の特性ではなからうか、政治にも經濟にも世相にも正しき判断を爲し得る豊かな批判心も有するもの幾何かある。勤勞生活を厭ふ風が男性間にも存せるか否、歐辯を弄し、激怒し易く邊幅を飾り財産を誇り見得坊なるものは團體的行動を爲すに適せざるものである、一人一黨獨りよがりば團體行動への叛逆者である。吾々同胞兄弟として涵養せざ

るべからざるは共働心ならずや。

地方文化功績を忘却

するな

永劫に盡きることなき筑紫二郎の流れとも地方文化産業發達史上に功績を遺した筑後川改修の恩人元衆議院議員農林省山林局長故佐々木正藏翁の遺徳を偲ぶため、故人出身地の三井郡味坂村々長佐藤齋氏らが發起人となり關係地方有志から淨財六千八百圓を募つて、由緒も深い久留米市小森野堤防に建設中であつた同翁の銅像除幕式は櫻花咲き誇る三日神武の佳節を卜して午前十一時から福島縣知事(安田地方課長代通)石野久留米市長(村上助役代通)末吉久留米署長、古賀(乙作)縣議、田中山川村長ら多數來賓を招待して盛大に舉行された、臺石の上に生けるが如き故人の銅像が自己の半生の苦闘史を織りこんだ筑後川面を悠々と瞰下し、參會者一同の感謝の陣ざしを浴びた姿を現はした、さすがに故人の

遺徳を偲ぶに足る。

ありやなしやの珍聞

奇譚(2)

○坂本龍馬の寫眞下關市外濱町伊藤醇氏宅は代々關の舊家として知られて居るが寺田屋騒動で名高い坂本龍馬が幕府の刺客を避けて止宿して居た所として有名であるが、今回はからずも全國に唯一つしかないといはれてゐた坂本の寫眞が同家の古文書の中から發見されたとの事である。其の寫眞には坂本が長髪をなびかせ強度の近眼らしい目つきをして居るは從來のものと同様であるが氣體稜々とした精悍さは在來の重厚な姿の寫眞に比べて如何にも刺客を避けた肉落ち頬のくぼんだ苦惱を示した珍らしいものである。

○吉田松陰の密書、水戸浪士櫻田の義舉と京洛を中心に捲き起された尊王攘夷の炬火を繞る安政の秘史に算する資料即ち梅田雲濱投獄せらるると聞くや常に意見の對立を

見、不仲であつたに拘らず私情を捨て、大乗的立場から檄文を飛ばし救ひ出しを劃策するなど松陰の人格心情を吐露して餘りあるものである。其の密書の文は

「阿蘇大宮司（阿蘇惟治）機密相通侯御都合願度候——何卒大原機密の一條密かに喜連公子（藩主の弟長高護美）へ御内達の御手段は出来申間敷や老兄、御同志人東上はつぱり出来申さず候哉、此の工夫奉願候、水戸士三十名亡命、江戸へ潜み候由能く事をなすや否梅田入獄につき一門生命亡命せしに上京させ大和の士民を協合伏見獄を毀させ候様致し候、何分朝廷言路洞開の一事奉恐入候也（安政五年）

十月八日 松下 陣人

警察と交通

時代の變遷と共に、官尊民卑の悪習を打破して行くことは事實である。特に警察の民衆化！と謂ふことがたいのみの警視總

監の新任の際新聞紙上で讀むことが出来るだが然し最近に於ける警察官の人権蹂躪は「センセシヨナル」な問題として過日の帝國議會でも相當問題視された。然し筆者の謂はむとするところはそんな大きな問題ではない。朝に夕に、四六時中街頭で見せられ、聞かされる事柄である。

即ち交通整理に當つてゐる街のお巡さんのオツカナイ、赤坊ならさし當り蟲を起す「オイコラツ」式口調である。文明國の大都市には凡そ相應しからぬ封建的殘滓ではあるまいか。

交通整理に足を棒にして立ち通してゐるお巡さんには心から感謝の辭を措まざるものである。

市民の公德心が向上して、交通道德を尊重しさへすれば、自動信號機の常置してある街路に交通係を置く必要もなく、明治の初期、羅卒時代の遺物にも似て黴の生えきつてゐる「オイコラツ」式口調でドナラレなくても済むのだが、——そこは急ぐと急

がないとに不拘つて無意識に——ドナラレる様なことになる、とくに待合せる人との時間を氣にしてでもゐたら、急ぎたくなくなるのが人情だ。

この「オイコラツ」式口調を街からなくして警察と民衆との融和と交通の明らう化を意圖せむとする警察主腦部の心持はまことに時代に適したることゝ當然のことながら感謝したくなるのは筆者だけではあるまい。然し主腦者のさうした意圖徹底せざる爲か、まだ「殆どどのお巡さんが「オイコラツ」式でドナリつけてゐる。朝から晩まで何萬何千と云ふ人の整理だ、生やさしい言葉遣つて「モシ——今通つてはいけません」なんてやつてゐたら整理にはなるまいが、然し「オイコラツ」のかはりにもつと人間の心持に反感をもたせぬ適當な言ひ方はないものだらうか？

例へば「オイコラツ」とどなりつけるかはりに「信號に注意」とかもう少しくだけて「今通つてはいけません」位いの優しさ

があつても、威權にも關係はしないだらうし、交通の混亂を惹起する程市民は不道徳漢でも無教養でもあるまい。ストップの信號の時一步出ても呼びつけて叱りとはすよりよほど親切で明ローで効果的ではあるまい？

警察官とバス

如上の如く交通整理取締に馬か牛をぞどりつける様に云つて、一寸した運轉手の違反にも長いこと呼びとめて叱りつけることを自分の手柄の様にやつてゐる。かと思ふと一方では朝の通勤時に混み各ふバスに隙をなして乗り込んで一般乗客に迷惑をかけることなど、新聞の投書欄を賑はしても馬耳東風だ。

最近特にバスの停留場區域を路面に白線で明示し、一寸でも發車し發車して停止線のところでストップしてゐて、充分乗車出來得る状態にあつても一般市民は乗車はまかりならぬのだ。車掌どのは菩薩にも似や

はしからぬ突劍鈍さで劍もホロ／＼だ。此れが交通の安全とスピード化ならやむを得ないが、然し官服を着て劍をつつてゐるお巡さんは停留場以外の乗降が天下御免で自由によれるのだから、世の中は様々なものだ。職權を亂用して乗除する警察官も警察官だが、乗せる運轉手も車掌も悪い。取締る者と取締られる者の強弱だと謂つては濟されまい、こんなことが平氣で許されてゐる様では、警察行政の明ロー化などは？ともあれ主腦者が警察行政の明ロー化を意圖するならば此の邊からまづ改善するの必要がある。科學教育萬能の弊を云々し變るに情操教育を以つてせむとする爲政者は宜しく警察官の素質を向上せしむべきではあるまい？

質の改善を度外視して明ロー化など木によつて魚を求むるに等しく、そんなことで警察と民衆の融和が實現されたら、電信柱に花が咲くだらう。

警察行政の主腦者は宜しく鉢の木の時類

や、水戸黃門の如く町人服を着て自ら街頭の現實をはつきりと認識、把握する必要があるまい？

机上に於て百の改善案より現實化した一つの實現の方がどれ程警察と民衆とを融和させるかも知れない。(糧生)

言へば耻だが言はね

ば尙耻だ

一寸鼻をつまんで聞いて居て下さい。最近新市域の大部が屎尿の取汲が市營になつてから、種々な不平が出て居ますが、僕も一寸不平を言はして貰ふ。今迄小規模に個人がやつて居た時は、その肥桶(?)は、一々汲終ると後始末よく整理されて持歸つて居て、僕達の目に餘り觸れずに済みました。處が市營になつてからは、大規模にする故か、道路の端に桶がワンサと積まれて居て(お役人式の故か積方だけはきれいにうまい)思はず横を向いて鼻をつまむか二三步前に深呼吸をして置いて、呼吸をこ

らして通らねばならぬ。然も之が市營と云ふ觀急の下にか遠慮會釋なく通行人の多い處であらうとなからうと構はず、三日も四日も放つてある。之は道路の美觀上は勿論衛生上又精神上決して黙視すべきでないと思ひます。亦三年後にはオリピックが東京に開催される。當然諸外國人に此の醜狀を見せねばならぬとすれば此の様な悪い取扱ひはどしどし止めて欲しい。其の日のものは其の日に始末したらどうですか。亦道路の色々な取締の規則があるのでせうから市民のみに取締を勵行し役所側なら勝手次第では自治行政が滅亡ですぞよ。

道路の善用道路の效用を妨害するものは

誰か

バスは今や大衆の足である。故に料金の低廉なることはさてをき、都會生活者の最も要望するものはスピードである。スピードを要求する大衆によつて舊時代の軌道電

車にとつてかはつた此のバスも、交通頻繁なる箇所には於ける道路悪用者には最も泣かされる。乗客は共泣する吾人の最も痛感するのは毎朝夕のラッシュアワーに颯爽とスタートしたバスが、交通輻輳せる車道の路端に平然と置き放された貨物自動車、手押車牛馬車などの爲に著しくそのスピードを殺がれることである。尤も多少の冒険を敢てするならば、スピードを落さずに通抜けることも得ようが、多數の人命を預かるバスとしてはそれもならず、止むなくスピードを減ずるばかりが走行を停止しなければならぬ。「チエツ」と言ふ言葉は此の場合敢て運轉手のみならず我々乗客よりも一齋に出るものである。役所へ、會社へと神經衰弱の先を急ぐ時、又日暮時、疲れた身體をバスに托して、家路を急ぐ者にとつて平然と置き放された諸車は少からざる苦痛である。田舎道ならば置き放された車を運轉手や車掌が取除けてから走ることも、多少はナンセンスな長閑な風景であるかも知

れない。然し交通頻繁な市街地では之は確に道路の悪用である。もう少し考へてなるとかならんものかと思ふ。又他に適當に取締の方法はないものか。(Q.P.)

狂人と呼ばれた蜘蛛

先生の凱歌

蜘蛛の研究に寢食を忘れて没頭すること三十年間、職を奪はれ、貧乏と戦ひ、狂人と呼ばれ、變人と稱せられ、一家離散し、妻子は路頭に迷ふと云ふ悲惨な生活にも屈せず研鑽に従事した、世の中には慈悲も同情も理解も持合はず、只金儲けと威張ること、利口振ること、享樂との外に望む所なくして反省も熟慮も羞耻も禮儀も捨て、省みず虚偽と粉飾と阿諛と追従とを是れ事とする徒輩の少なくないのに之れは實に篤志篤行篤學の人物である、其の不撓不屈の精神と努力とは遂に先人未發的研究の結果を見ることを得た、夫れは斯界に於ての權威あるもので「大日本蜘蛛類圖説(上中下)

として世に公にせらるゝとの事である。此蜘蛛先生とは誰か、山梨縣西山梨郡能泉村の小松榮氏其人である。

櫻もいろくゝ人のみ

かは

江戸文學の巨匠の一人瀧澤馬琴の後裔で櫻の研究家を以つて有名な瀧澤邦行氏が吉野に櫻を尋ねて樹齡八十年と推定さるゝ一本の代表的な大和櫻を奥千本西行庵の邊に見出したとの事であるが櫻についての同氏の一語を紹介する、人の異なる其の面の異なるが如しと云ふか櫻の種類も数多いことである。氏は曰く、山櫻は紅山櫻と白山櫻とあるが、白山櫻は關西系、紅山櫻は東北の元來産でこの東夷が關東を侵略し、現在では信越線くらゐを境界に判然と分布されてゐて、日光などではこれが混合して見られる、大體世間では大和櫻といふと大和で育てた山櫻の苗木を總稱してゐるが、私のいふのは同じ山櫻でも花の色彩とか形とか

品位とかから觀察してその優秀なものを指して稱へたい、私の見た吉野山はもつと原始的な野趣あるところを想像してゐるが、全く遊覽地化してゐるのに失望した、しかし奥千本などにはまだ郷土的色彩の濃いのはよいけれども單に花を求めるものかいらへば吉野は寶庫で奥千本だけで七本ほど變つたものを發見、全山では約百本もあらうと思ふ、殊に花の時季が同一場所でも早中晩と相違してゐるのもよいし、これだけ優良種の多いところで、殊に樹木の手入れの行届いてゐるのには感心した、たゞ樹幹の空洞をコンクリートで充填してゐるのは感心しない、なほよい品種を傳統するためには實生からでなく専ら接木によつてもらひたい。

× × × × × × × ×

花つけし庭の櫻の嬉しさに

初花や松の隙より二子山

鮎の子のひらくゝと陽のあやに

移り香に裏の茜や小搔卷

さめ切らぬ夢の名残や小搔卷

雨ぬくとう被ぎ臥しけり小搔卷

巴藤

畦つたひ田水溢るゝに落花かな

落陽の廢寺なるらし散る櫻

堤改築の日近づきし土筆かな

炊煙の横さまに流れ桃の花

篠竹の藪拓いてそこら桃の花

百貨店員の花見なるらし夕櫻

芦の芽にまつわり消えつ船煙

朝靄のうすらぐ川岸や猫柳

初聲